

【教育長賞】カレーライスとミルクメーカーのワルツ

安城北部小学校 早瀬 千恵

その日は、特に変わったことのない日だった。いつものように授業を受けて、いつものように遊んでいた。だが事件は四時間目の後に起こってしまった。そう、それは給食だ。べつに給食が消えたとか、そういうことではない。

「何この液体。」

茶色の液だった。まだ私は一年生だったため、さっぱり分からなかった。だから、分からないものはほつといて、カレーライスの方にひかれてしまった。そのときは、あれよりカレーライスだった。はやく食べたい。けど、あの液は何だろう。やはり気になつてしまう。さて、名前はなんだ？ どうやって使うの？

「あつまでまで。」

道具箱をあさっていた。

「あつた！」

それはこんだて表だった。

「えーっと今日のー？ これ、かな？ ミルクメーカー？ すごい名前だ。そして初めて聞いた。」

「ミルク、ミルク？ そうか牛乳に入れて、まぜて飲むものなのか！」

そうやって考えてみると、とってもおいしそうだ。チョコレート味の？ ココアだったりして。そうやって妄想しているうちに時はながれていった。

「おい。」

「ん？」

妄想しすぎてしまった。まだおいしそうだけで、おいしいって決まったわけではない。

「いただきます。」

さつそく容れ物のふたをあけ、牛乳に入れた。色がうすい茶色に変わっていく。そして、「ゴクゴク」と音をたてながら飲んでみると、とってもすごかった。そう、おいしかった。そしてその後カレーを食べてみた。

「おいしい・・・。」

正直メツチャ合った。交互に食べると、二つがワルツを踊っているみたい。

それから私は、ミルクが出るたびに喜び、そして味わって飲んでいった。それどころか、家でも飲んでいった。粉が売っていたから、それをまぜて飲んでみる。あきない。ずっと飲んでいのにあきない。そしてミルクメーカーをアレンジしていろいろ作っていたりもする。飲んでるうちにいろいろ考えてしまうのだ。

それが今でも続いている。六年生になっても、ミルクメーカーは何でもある。そしておいしい。その魅力にひかれ続けている。今では、バナナやイチゴ味も出てきていて、さらにおいしくてあきません。三つ合わせる時さすがにやりすぎですが。ミルク、そしてそれにもっともふさわしいカレー。どちらも私の給食のヒーローです。これが給食の中で一番大好きです。